



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤 賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境啓発チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

ちばNPO地域フォーラムに参画して

環境パートナーシップちば代表 加藤 賢三

ちばNPOフォーラムは、ちばNPO地域フォーラム実行委員会と県との主催により、平成16年1月17日にNPO活動推進特区である千葉県大網白里町で開催されました。悪天候の中400近い方々に参加していただき、大盛況のうちに終了いたしました。

統一テーマは、「農業文化」とNPOです。あらゆる市民生活の基盤である農業は、食・環境・癒し・観光等に活力を生み出します。「それが、農業文化です。」が合言葉でした。

全体会では、地元大網白里町の無形財産である獅子舞が披露された後、堂本千葉県知事の「NPO立県千葉の実現を目指して」をテーマに基調講演が保健文化センターで行われました。ひきつづき、午後からテーマ別に分科会が行われ、分科会は、第1分科会 食・農と環境を考える、第2分科会 土と水が育くむ心の教育、第3分科会 NPOから発信 福祉農業、第4分科会 アートNPOでコミュニティづくり！ 第5分科会 NPOで夢づくり里づくり、第6分科会 小・中・高校生による発表、そして、特区懇親会でした。



環境パートナーシップちばで、新しい方向性の

総合司会 小川かほる 千葉県立中央博物館 環境教育研究科長
 歓迎の挨拶 高谷秀司 大網白里在住 プロデューサー
 開会の挨拶 加藤賢三 環境パートナーシップちば 代表

1. ホテルを通じて農と環境を見る 加藤賢三
2. 千産千消 千葉県農林水産部 川名 昭
3. おいしくて安全な野菜づくり 野栄町 農業 熱田忠男
4. 大山千枚田 NPO法人大山千枚田 保存会理事長 石田三示
5. 農村から都市への情報発信 (有)リュエル 平田 耕

パネル討論
 閉会の挨拶 川名 昭

第1分科会では、地元の方の歓迎の挨拶から始まり、地元の方々の声を相当に反映することが出来たように思われました。持続可能な社会を考えるとき、その主体の私達の命の源である食、それを支える、農業のあり方、これからあるべき姿を、環境と言う視点を加えながら、討論することが出来ました。さらに、農業の現場が活性化するための、地産地消の推進や、帰農塾、グリーンツーリズム、食の安全性と生産性の問題



試みとして、第1分科会の「食・農と環境を考える」という部分を受け持ちました。

「食・農と環境を考える」は大変幅広い分野ですが、これからの持続可能な社会の実現に向けて、あるいは資源循環型社会の構築を考えるとき、食・農と環境を考える視点は欠くことができません。ここでは第1分科会のプログラムと内容をご紹介します。

第1分科会は午後1時から午後4時まで、67人の参加者のもとで、活発な討論がなされました。

が活発に議論されました。

そして、今回のテーマ、「食・農と環境を考える」はとてもやりがいのある問題と言う共通の認識を持ち、この議論の継続を約束しました。

幸運にもこの継続として、7月3日(土)に千葉県立中央博物館で「食・農と環境を考える パート2」を開催する運びとなりました。ぜひ、このつづきを話し合いませんか？

平成16年度総会開催のご案内

環境パートナーシップちば 代表 加藤 賢三

春うららの季節、会員の皆様にはますますご活躍のこととお喜び申し上げます。「環境」「パートナーシップ」という言葉が定着した感のある昨今、「環境パートナーシップちば」の果たすべき役割が問われています。

平成16年度総会を執り行いますので、ご出席くださいますようお願いを申し上げます。

----- 記 -----

日時 4月25日(日) 13:30~16:00

場所 船橋市中央公民館第2集会室

(Tel 047-434-5551)

内容 第1部 総会

第2部 会員の<活動の事例発表>

<活動の事例発表>をしてみませんか?

身近な体験を通じて気づいたことを、いっしょに話し合う交流の場を設けます。会員の<活動の事例発表>を募集しますので、ふるってご参加ください。

次の世代によりよい環境を残そうと、日ごろ地域で起こっているいろいろな環境の課題に取り組んでいる会員のみな様の活動を、総会で是非ご紹介ください。

(時間の制約から3団体程度を予定)

お問い合わせ・お申し込み先

総務部 縣(あがた)

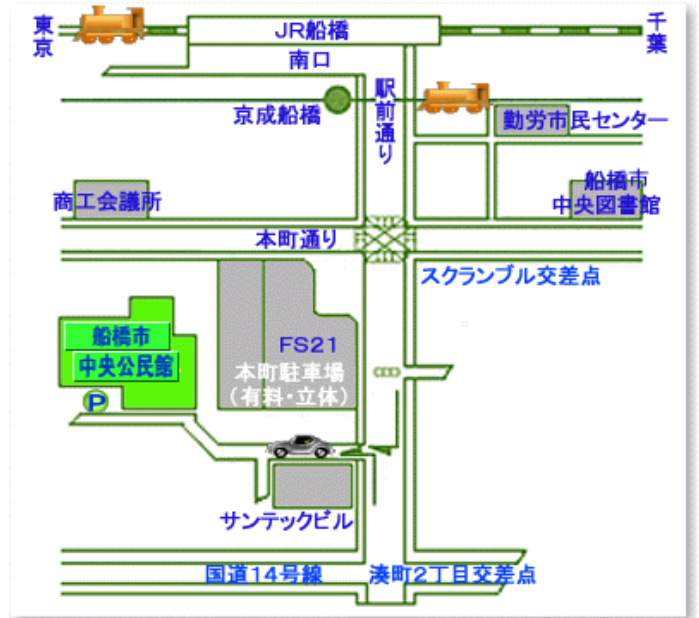
Tel & Fax 047 364-3950 E=mail

kazukoagt@yahoo.co.jp 締め切り 4月15日

運営委員・スタッフ部員を募集します!(企画・紙面づくり・運営などに興味のある方)

総会の後で、会費制(3000円程度)の交流会を予定しています。ご参加ください

総会および交流会のご出席・ご欠席は、同封のはがきにて4月15日までにご連絡ください。



報告! 第4回「ちば環境再生基金」公募助成事業対象に環パちばが決定!

~ 印旛沼をきれいにする活動(案) ~

3月23日千葉県庁にて、「ちば環境再生基金」公募助成事業の第2次審査(公開プレゼンテーション・加藤代表のプレゼン)が実施され、環パの応募事業「印旛沼をきれいにする活動」が助成事業対象に決定しました。会員のみな様に、当事業(案)の報告をさせていただくと共に、あわせて活動への参加協力をお願い申し上げます。

<事業目的>

印旛沼流域(鹿島川・印旛沼・坪井川・桑納川・新川)の小・中学生の親子を対象に、飲用湖沼汚染ワースト1の印旛沼の現状を資料ではなく、体験して、実感していただく。そのため、水質を調べ数値を測り、どれくらい汚れているかを知っていただく。

<事業内容>

地域の小・中学生の親子を対象に、土手のゴミ拾い・生き物調べをする[川の学校]・バス見学会を開催します。また、その報告会を開催し、調査の報告や「水や川をきれいにして印旛沼をきれいにする宣言」を発表し、地域の環境の輪を広げる活動にひろげるきっかけにします。

開催通知・参加募集・成果発表を、環境活動団体ネ

ットワークやチラシ・当会の情報誌「だより」・新聞・テレビなどで発信します。また、「エコメッセちば」・「ちば環境シンポジウム」・各市町村の環境イベントなどに、パネラー・展示などで参加協力し成果発表を行い、継続した環境再生・保全の啓発に努めます。

<住民参加見込み>

千葉市・佐倉市・船橋市・八千代市の印旛沼流域の関連各市町村・教育委員会・学校と協働し、印旛沼流域の土手のゴミ拾いや「川の学校」の水質調査に夏休みの中学生の親子の参加を呼びかけます。その際「千葉県環境研究センター」「千葉県立中央博物館」「千葉工業大学」の専門家の研究員や教授に協力をお願いします。印旛沼流域の「せっけんの街」「印旛沼広域環境研究会」「八千代オイコス」などの環境活動団体と協働して事業を展開したいと考えています。

<会員のみな様へ、参加協力をお願い>

当事業は、さっそく4月から事業展開する予定です。会員の個人・団体のみな様、計画段階から参加協力してみませんか? 「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実をめざし千葉県内の環境市民のゆる

やかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展

開を図ることを目的としたネットワークです。

(文責：総務部 縣 和子)

『印旛沼をきれいにするためのアダプト制度』

環境パートナーシップちば代表 加藤 賢三

「環境パートナーシップちば」では、「印旛沼をきれいにするためのアダプト（養子）制度の導入に関する調査報告書の作成」にあたって、昨年 9 月「LOVE OUR BAY 募金」に交付申請を行い認められました。申請内容は、千葉県の水瓶である印旛沼の浄化のため印旛沼およびこれに注ぐ河川について、アダプト制度を導入していくことに関するセミナーの開催、調査を行う。調査は、先進事例として、諏訪湖における実施状況を調査して、「印旛沼をきれいにするためのアダプト制度の導入に関する調査報告書の作成」を行うものです。

ちなみに、諏訪湖については、すでに「諏訪湖アダプトプログラム」として 2002 年 2 月に募集開始。5 月初旬には 64 団体が参加し、10 月の時点では、延べ活動回数が 140 回、4,500 人の動員をしています。

今回の私達の活動が、諏訪湖の事例のように、アダプト制度が普及して、市民が行政と事業所と一緒に力

を合わせて印旛沼流域のクリーン作戦を行っていくモデル事業に発展することを願っています。「言うは易し、行なうは難し」という言葉がありますが、はじめの一步を踏み出すことに、意義を感じています。

印旛沼の現状に対しては、住民と行政が一体となって、その役割分担を明確にした行動計画の実施が必要な時期に際して、環境パートナーシップちばでは、3 年後を目安として早期に実現可能な取り組みの一つとして、印旛沼にアダプト制度を！のスローガンを掲げて行きたいと思います。

今回の提案はそのための基礎作りの一つとして、16 年度の事業の中で取り組んでいきます。そのためには、皆様のご参加、ご協力をお願いいたします。ちなみに、当会の総会は平成 16 年 4 月 25 日です。関心のある方はぜひ参加してください。一緒にやりましょう！

県のサポートセンターを検討する中

平成 13 年度千葉県 NPO 活動推進懇談会で、県職員と NPO の相互理解のためには県庁内にサポートセンターがあってほしいという知事のお考えから、推進指針の策定と並行して、サポートセンター設置を検討してきました。委員と職員で手分けして宮城県・仙台市・神奈川県などに設置されているサポートセンターの見学やヒヤリングを行い、千葉県の NPO のご意見をうかがうなどを経て、

千葉県は地理的中心の県庁付近に 1 時間以内で集合できる県民が少ないため、県庁内に 1 箇所設置では全県的な利用に適さない。

千葉県の現状は、地域(市町村)を活動範囲にする NPO が多い。

県庁舎安全管理の面で平日 9 時～17 時の開館以外の可能性がない。

などのことから、県としてはサポートセンターでなく平成 14 年 4 月に県庁舎 2 階に NPO パートナーシップオフィスを設置しました。現在は、県の役割になっている法人認証の相談・手続きがしやすい場として、県と NPO の協働の出会いの場として、NPO の情報発信の場として多くの NPO に利用されています。

市町村のサポートセンターに求められるもの

平成 16 年 1 月にサポートセンターを設置している市町村は、千葉市・習志野市・八千代市・市川市・船橋市・松戸市・我孫子市・浦安市・佐倉市・印西

市・白井市・栄町です。今後も公設サポートセンターは増える傾向と思いますが、ではその役割は何でしょうか。

「サポートセンターの役割は何だろう」と考えるシンポジウムが、1 月 31 日まつど市民活動サポートセンターにおいて、ちば NPO 協議会の主催で開催されました。この中で市町村担当職員からの発表では、市民に市民活動を浅く広く知ってもらうため情報の場の支援・交流の場の支援をセンターの支援メ

ニューとしてあげていました。しかし、サポートセンターとしてのニーズが確認できているのかは、明確になっていませんでした。ニーズを把握してそれに応える支援メニューを提供できなければ、センターとしての役割や責任を果たしているとはいえないでしょう。

サポートセンターが対象とする人は、活動中の NPO、これから活動しようとしている人たち、資金や専門技術を NPO に提供しようとしている人たちなどでしょう。その支援は、目の前の活動だけを支援ではなく、NPO が半歩先を見るとすれば、センターは一步先を見て「今後こうしたい」といえる予測も必要となります。

このようにこれからのサポートセンターの支援プログラムには、ニーズに応える体制づくりが求められているのではないのでしょうか。

サポートセンター の役割

千葉県 NPO 活動推進委員会委員
横山 清美

H15 第 4 回 エコサロン

「印旛沼 むかし・いま・これから」

エコサロン、今回の講師は、(財)印旛沼環境基金水質研究員の本橋敬之助氏。柏市で生まれ手賀沼で泳いだ本橋氏は汚れて行く手賀沼、印旛沼を何とかしたいと千葉県水質保全研究所(現千葉県環境研究センター)で長年水質浄化等の研究をしてこられた。退職後の現在は、印旛沼環境基金の水質研究員として、水道水源ワースト1の印旛沼の水質改善に取り組んでいる。

印旛沼の水質悪化は、歴史的に見ると、徳川家康が江戸に幕府を開き、東京湾に流れていた利根川本流を銚子方向に向け太平洋に流す工事「利根川東遷」から始まるが、平時には、印旛沼の水は利根川を経て太平洋に流れていた。しかし、利根川が増水すると、川の水は逆流し、印旛沼流域は大洪水となった。江戸時代中期には沼流域の治水と新田開発のため、沼の水を東京湾に流す目的の大きな工事が3回行われた。しかし、いずれも難工事で失敗、大洪水を繰り返した。そして昭和に入り、22年には、再び流域の治水と新田開発を目的とした事業を開始、その後さらに京葉臨海工業地帯への工業用水と上水道水源の確保が目的に加わり、昭和44年に完成した。この工事では、沼の水を東京湾に放流できるように新川と花見川を結び、印旛沼の水位を常時2.5m(灌漑期)~2.3mとし、沼の水位が下がると揚水機場から利根川の水を入れ、水位が増すと排水機場で強制的に利根川または花見川に排水する。これで洪水の危険がなくなり、利水が可能になったが、一方では沼の水は停滞し、汚れがたまり易くなった。

印旛沼の水質

印旛沼の水質は昭和40年代から始まった流域人口の増加により、まず西沼で汚濁が徐々に進み、その対策の一環として流域下水道の普及、三角コーナーやろ紙袋の使用、洗剤の使用は適量などと、生活排水対策が県指導で進められた。しかし、沼内では蓄積した窒素、りんなどを栄養源とする植物プランクトンが異常繁殖し、それが沼の汚染を招き(2次汚濁)59年にはCODで13mg/lに達した。そして翌60年頃からは、オニビシが異常繁殖し、漁業障害や異臭などを招いたことから、ヒシの刈り取りが62年から平成5年度まで行われた。この間は、水質的には、さほどの悪化は見られなかったが、刈り取り後は、再び植物プランクトンが異常繁殖し、水質は悪化、全国湖沼水質ワースト5の仲間入りをした。最近、ヒシの復活が見られるが、その対応が注目される場所である。

流入河川と汚濁物質

沼に流入する河川の水質をみると、新川と神崎川はそれぞれでの環境基準(BOD)を満たしていないが、その他の河川ではほぼ満たしている。一方、印旛沼の水質(COD)をみると、その汚れのうち、約半分近くが2次汚濁(プランクトンの生産)に起因することから、沼の水質改善にはCOD汚濁物質のみならず、窒素およびりんの汚濁削減が必要となる。ちなみに、窒素および

りんは、桑納川、高崎川、鹿島川などで濃度が高い。これら栄養塩類の発生源は生活系

と自然系を合わせて総発生負荷量の約80%を占める。生活系としては、生活排水の直接流入や浄化槽の排水。特に浄化槽の排水は窒素、りんが高濃度で、今後高度処理が必要である。一方、自然系におけるりんは、農地や山林だけではなく、市街地から雨で流されてくるものがかなり多く、街の美化・清掃も重要である。

沼の自然環境

植生については、沼では沈水性、浮葉性の水草類は激減したが、周辺の岸辺にはヨシハラ、マコモ、ガマなどの群落が見られる。しかし、ナガエツルノゲイトウという新しい帰化植物が、ヨシハラなどを侵食して繁殖を続けているので、その対策が必要である。また、魚類等についても激変しているが、沼の周りの水路には印旛沼で姿を消した沈水植物やスナドジョウ、ヤツメウナギなどが生息しており、印旛沼の復活を待っている。

水道水の安全性

印旛沼は千葉市、習志野市などの飲み水として貴重な水源であり、柏井浄水場で浄水されている。最近の浄水技術は異臭騒ぎがあったころに比べると格段に進歩し、安全性は確保されている。しかし、利根川や江戸川を原水とした浄水費用が約10円/m³に対し、印旛沼は40円と高額である。また、凝集剤としてPAC(ポリ塩化アルミニウム)は十分な注意をもって使われているとは思いますが、その多量使用は危惧される。

今後の課題

昨年第4期印旛沼水質保全計画が策定されたが、水質計画目標には程遠い。県では、印旛沼水質浄化を官民学一体となって進める必要があるとして、「印旛沼流域水循環健全化会議」を立ち上げ、去る2月3日には30年後に「泳げる印旛沼」を目指した緊急行動計画を発表した。今後、多くの施策が実施されたとしても環境基準は満たさない。

今、私たちの生活のあり方そのものを変えていくことが求められている。環境教育・学習が重要である。その担い手として、“もの”を大事にした生活経験を持ち、自然との付き合い方を知っている70歳以上のお年寄りに活躍して貰いたいと願っている。

(文責:広報部 佐藤)



温暖化 防止活動

地球温暖化雑感

千葉県地球温暖化防止活動推進センター事務局長
宮口 治憲



先日、朝日新聞のホームページに「世界のCO₂濃度、過去最高値を更新」という記事が載りました。二酸化炭素の平均濃度は 2001 年に比べ 1.8ppm 増え 374ppm と過去最高値を更新したとのこと。もっとも、今だ京都議定書が発効していない状況を考えると、当然といえば当然かもしれませんが・・・。

千葉県地球温暖化防止活動推進センターは、平成 13 年 2 月に「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づき千葉県知事の指定を受け、講演会等の開催や地球温暖化防止活動推進員の委嘱に係る業務を実施してきましたが、15 年度、環境省からの委託で推進員に対する研修事業を実施させていただけることとなりました。

研修の企画にあたっては、まずは現状を分析し、推進員にとって何が必要か考えることからスタートをし、今後の推進にも有益なものであること、県民に対する啓発的な要素などなど・・・単に、知識や手法の伝授にとどまらない内容にしたいと考えて、県民の温暖化に関する意識を知るための実地研修を一つの核として実施することといたしました。

特に、実地研修は、会話を作り出すきっかけとしての意識調査アンケートを県内 19 の駅で実施することとし、市町村にも、講習会への参加、ワークショップへの同席と併せて、実地研修への協力をお願いしました。

環境パートナーシップちばにも、環境財団内に事務局を置いている縁もあり、個人的には何かいっしょにやれることがあったら、いっしょにやりたいと考えて

いたので、折角だからと思い、声をかけさせていただきましたが、講習会、実地研修、ワークショップとそれぞれ参加をいただき、紙面を借りてお礼を申し上げます。

地球温暖化は非常に厄介な問題です。その影響は地球規模で長期にわたり、人類の生存環境をも脅かすほど大きなものです。しかしながら、具体的な影響、特に日本においての影響はなかなか見えてはこない。おまけに具体的な対策としては、今までの環境対策でお願いしてきたことと変わらない。この問題をどう理解していただき、行動に結びつけていくのか・・・まだまだ、考えないといけない事は山ほどありそうです。

京都議定書の第 1 次目標年度はもう目の前に迫っているが、その目標値達成の目途は今だたっていない。このような状況の中、効率的に成果を上げていかなければならない・・・そのためには、県・市町村・センター・推進員などの連携が重要なのでは。

～ 「地球温暖化問題の意識調査アンケート」に参加して～

環境パートナーシップちば 縣 和子（千葉県地球温暖化防止活動推進員）

千葉県が広く県内で公募し、約 200 名に委嘱している「地球温暖化防止推進委員」の実地研修として「地球温暖化問題の意識調査アンケート」を、昨年 12 月、県内 19 ヶ所で行い、環パも参加協力しました。集計結果を踏まえて、2、3 月に実施の各地で「振り返りの会」が開催され、松戸市で参加した一人として報告します。

<アンケートのねらい>

温暖化問題への県民意識の調査という統計データを集める一方、推進員がアンケートを取るという現実の行動をきっかけに、市民との対話の中で温暖化問題についての生身の意識を、実感することが最大のねらいです。また、おおぜいの人が通行する場所で、認識しやすいおそろいのジャンパーで、同時多発的に推進員を配置することで、推進員の存在そのものや温暖化防止の PR を、県民に直接的なあるいはマスコミに取り上げられることで間接的な相乗効果を目指します。

<アンケートの様子>

駅構内の帰宅時の夕方 5 時からのアンケートなの

で、「温暖化問題を知っていますか?」「温暖化防止をしていますか?」「温暖化対策に協力しますか?」と、立ち止まって 1 分間程度で答えられる質問にとどめ、「やっていますよネ!」など誘導的な質問の無いように事前説明してから始めました。

また、入門者向けに簡単にわかりやすく内容を抑えた「ストップ! 地球温暖化」のパンフレットを作成し、アンケートに応じた方の中の希望者だけに渡し、読まねずにゴミになることの無いよう環境に配慮しました。

アンケートには、各市町村の行政から 19 名が参加協力しました。

<振り返りの会から>

- ・ 心理的に余裕の無い帰宅時という時間の設定は、適当なのか?
- ・ 行き先を急いでいる駅という場所の設定は、適当なのか?
- ・ 良い集計結果だが、応じた人はもともと関心が高いのでは?

- ・ 答える知識や意識は高いが、生活での実際の行動につながっているの？
- ・ 関心の割合が見えるように、アンケートをお願いした方の何人の中で応じてくれたのかヒット率が出るのとよいのでは？
- ・ 実施の目的が、事前の講習会で十分に推進員に伝わっていたのか？
- ・ 市町村の活動団体に所属している場合と、個人が県から推進員を委嘱され広域の問題に取り組

む場合と、推進員の意識が切り替えられているのか？

<私の雑感>

先進国の温室効果ガスを減らす京都議定書で、日本は2008年から2012年までに1990年に比べて6%減らすことを約束しています。これに向かって国・県・市町村はいろいろな取り組みをしていますが、私たちが家庭・地域・対策への協力などできることは何なのでしょう？推進員のみなさんと一緒に考えることができました。

身近に農業はなくなっているの？

地元の農産物を大切に作る農家と市民の会、メダカの会など主催（四街道）

宇根さんの講演に 189 名も

環境パートナーシップちば 高橋 晴雄

「百姓仕事は自然をつくる」の著者、宇根豊氏を招いての講演会が去る1月15日四街道文化センターで開かれました。主婦あり、土いじりの好きな方あり、研究者あり、農業を営む者あり、生花の先生あり、営業マンありこんなに多彩な人たちがうなずき、手をたたき、共鳴し、涙ぐみ、さわやかな顔になる集いもめずらしい。

トンボの語源は（諸説あるとはいえ）「田んぼ」だったとは！これにおどろき、トンボやメダカが身近なところから姿を消しつつあることに改めて思いを馳せる。

彼はいいます。「なぜメダカやトンボはタダなのか（つまり自然環境は何故タダなのか）と問うたことがあるのか」と指摘されてはっとする、農産物がただ安全で安けりゃいいのかと詰め寄る。返す刀で「生産性だけを追う」これまでの日本農政に痛打を浴びせて行く。

ついで、「田んぼから先がみえる」のだということ、自分の体験や研究から編み出した技術と言葉で語って行く。この技術が実に面白い。誰でも使えるように工夫されている。

彼の仲間が考案した虫見板という。これで田んぼの虫を見つける。大きな発見はタダの虫の発見だったという。実は益虫のえさはタダの虫たちだったのだ。これで減農薬に変わっていったという。畦の大切さも実感する。なるほど。トンボもメダカもホタルも田んぼが生きているバロメーター。野の花も水辺の草花もドジョウも田螺も。

田んぼは実は米だけでなく自然を作ってきた。手を加える事によってはじめて自然が守られ創られて行く。自然はタダじゃない。私たち日本人はたんに懐かしいふるさと観をもつがその景観を失う事で心の拠り所まで失ったと思えてならない。

さて、そもそも、日本の私たちはいつから里山を忘れて、おろそかにするようになったのだろうか。お天道様とともに朝夕があり、感謝し、祈ってきた我が祖先の汗水を忘れてひたすら貧しさからの解放を大義にいわゆる近代化の道を歩んできた。「近代」は「もっと

多く」「もっと早く」「より大きく」を追求してきた結果、競争原理になじまない自然や農業、そして人間そのものを壊してしまい、日本社会は急激に心貧しくなっています。そのことに人々は感じ始めています。田んぼ、里山、トンボ、この日本の原風景は、百姓仕事を作ってきたのだということ認識し、形にする仕事を始めなければ先は暗いと私も痛切に思います。彼は「カネにならない仕事を評価する社会」に変わることを。一体ぜんたいそんなことが出来るのでしょうか。

デ・カップリングの導入もその改革の一つだ。生産と所得が一体（カップル）になっているものをデ・カップル（分離）して金では評価できないタカラモノを評価して農業の維持、発展を図っていく。ドイツの農家の平均収入は400万円。その多くを農業の実収入をこえてで補填されていると彼は話す。なるほどヨーロッパの環境農業ははるかに日本より進んでいるようだ。しかし日本の現実はずぐにはそうも行かないので、かねにならない事の価値への「眼差し」を持つ事からはじめなければならない。

そんな思いの人たちが私だけでなく、四街道のそこ、ここに湧き出るかのように189人も集ったのです。私のいつもの散歩道にある農家と私の住宅団地住民40人を会員に昨年、県からの「共に創る地域（まち）社会事業」の一環として、朝市を積み重ねて輪を作ったが、この会の中心には高校の先生を辞めて、農業を創る仕事を始めた人がいて、牽引者となってすすめたものであった。

しっかりとした、近代を超える価値観と、生きる視点を持ち、心と頭と、何よりも体を動かすこのような人がいさえすれば、地域から社会、そして国を変える道は小さくはあるが大きな質の一步を踏み出すことができるのではないかと。そんな思いをいだかせた集いでした。

「百姓仕事」が自然をつくる—2400年目の赤とんぼ
宇根 豊【著】築地書館

四街道メダカの会ホームページ

<http://www.geocities.co.jp/NatureLand-Sky/4616/>

環境教育を進める会への思い

環境教育を進める会呼びかけ人 中岡 丈 恵

環境保全活動・環境教育推進法が昨年 10 月に制定されました。

この推進法をどう使うか、使いこなすのかはまず法を知らない事にはと、3月7日に松戸において学習会を開催いたしました。講師には協議会を作り国会への働きかけをした藤村コノ工様と環境省からお招きして法案について、県内・外から 27 団体 56 名の参加者の方が学び、活発な質疑をいたしました。

私は平成 8 年から千葉県環境学習アドバイザーとして、各地で大勢の人と環境学習の講座をしてきました。そのなかで環境保全・環境学習の根本は個々の普段の生活と低学年教育からであると、現場を伝えることをしてきました。

しかし一つの組織や個人での行動よりは、「組織を越えてそれぞれが連携しあい力を集めて協働」をして点を面にして広げる必要性も感じていました。

自然の少ない中で育ち、生まれながらに環境汚染の洗礼を受けている子どもたちに、価値観を形成する教育をすることは難しいことでした。また市民も一人一人は環境を憂い汚染を感じているのですが、それにも増して便利な生活も手離せません。なぜならば衣食と安全な環境を整えることが幸せと励んできた成果なのですから。

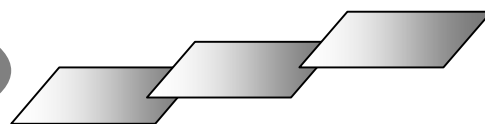
しかし、そんな生活は美味しい水が飲め、楽しい水遊びをした、手賀沼や江戸川、東京湾での自然な経験ときれいな大気や多くのものを、子どもたちから奪い、大人と同じ生活をさせてしまうことになりました。

今の生活様式は幸いに都会も田舎もなくなりました。自然の中にいるのに自然とのふれあいをしないで、ファミコンで遊び塾までは車で送り迎えも同様です。テレビ・コンビニの普及は、泥んこになって魚を捕り、焼いて食べたり、芽吹いた木の芽、木の実を採りなど遊びながら体で覚えた、食べることの苦勞の必要性が無くなり、喜びも味わえなくなりました。

子どもは無垢の内に、大人が丁寧に知らせることをしていきませんか、そして大人たちもここいらで立ち止まり、真摯に考えて、地域の少し前の自然を思い出し語り合う会や、田んぼの様子や川に入り生き物調べをすることが環境学習教育で、身近な自然を知る楽しい体験の場になります。

保全活動をしている市民、教育者、企業家たちが手を携えて共働をして行く時に、国が制定した法を上手に使う、すなわち市民の手で「環境保全活動・環境教育推進法」を生かし、自然の回復、人間回復をする場作りにもなります。机上の会議でへとへと先生たちと子どもたちとの共働を実現させたいです。……

総務部より 運営委員会だより



2月運営委員会（2/20）

○参加行事予定

- ・「地球温暖化防止活動推進員に対する研修事業」のアンケート調査の振り返りの会
- ・千葉大学「高齢化社会・環境情報センター」利用者会議

○協議・報告事項

- ・「印旛沼水質保全協議会・手賀沼水質浄化対策協議会共催による研究会」で加藤代表が事例紹介(1/30)
- ・「エコサロン」の打ち合わせ
- ・「だより」36号の企画・作業日程の検討
- ・総会の企画・日程の検討

3月運営委員会（3/18）

○参加行事予定

- ・千葉大学「高齢化社会・環境情報センター」利用者会議(3/31)

○協議・報告事項

- ・環境再生基金公募助成の第1次審査通過・第2次審査(公開プレゼンテーション)の出席(3/23)
- ・「エコサロン」の報告
- ・「だより」36号の企画・作業日程の検討
- ・総会の企画・日程の検討
- ・会計処理の検討

お知らせコーナ

千葉県環境研究センター公開講座予定

「県民の協働参画でより良い県域環境の実現を」

日時：平成 16 年 5 月 22 日（土）13:00～16:30

場所：千葉県立美術館講堂

<http://www.chiba-muse.or.jp/ART/index.htm>

問合せ：千葉県環境研究センター 企画情報室

TEL 0436-24-5309 FAX 0436-23-3598

e-mail kankyoken@ma.pref.chiba.jp

環境講座を実施するNPOの募集

県では、平成 16 年度に環境学習を専門とする NPO から環境講座の企画を公募し、その実施を委託する事業を実施します。

募集講座は、一般県民を対象とした「体験型環境講座」(2回実施) 子供を対象とした「こども環境講座」(2回実施)です。

応募資格は、県内に事務所がある NPO で、法人格の有無は問いません。募集期間は 4 月 5 日～5 月 7 日。委託先の決定は 5 月末の予定です。

問い合わせ：県庁環境政策課：TEL 043-223-4139

センス・オブ・ワンダー2004

「われらをめぐる海 三番瀬」

主催：レイチェル・カーソン日本協会

シンポジウム(参加費：無料)

日時：4 月 17 日(土) 15:00

場所：浦安市民プラザ WAVE101

自然観察会(参加費：200 円 要予約)

日時：4 月 18 日(日) 9:00

場所：三番瀬日の出干潟

参加費：200 円 要予約

問い合わせ：TEL.03-3811-5511(田和)

「沈黙の春」, 「センス・オブ・ワンダー」の著者レイチェル・カーソンは、また「海の作家」でもあります。彼女の偉大な業績を学ぶために、今回はこの「海の作家」に焦点をあて、シンポジウムと自然観察会を行います。

視察研修会開催の案内

第 4 回「全国菜の花サミット」 in いばらき

日時：4 月 24 日(第 1 部)

内容

- ・基調講演・内橋克人(経済評論家)
 - 「持続可能な社会は地域の共生と協同から」
 - ・パネルディスカッション
 - ・和田武(立命館大学教授)
 - ・島山智子(常総生協理事長)
 - ・コーディネーター・藤井絢子
 - ・事例報告は茨城の楽しい取り組み 7 例
 - ・コーディネーター・飯島博(アサザ基金理事)
 - ・全国リレートークなど多彩です。
- 持続可能な社会づくりのモデル事業の一つ「なのはなエコプロジェクト」を推進しているちば環境再生基金では、このサミットの視察研修会を計画いたしました。

全国から参加の皆様から元気をもらいましょう!

- ・主催・ちば環境再生基金(事務局：千葉県環境財団)
- ・バス代無料・募集 40 名(先着順に受付)ただし、サミット第 1 部の参加費 1000 円は自己負担です。
- ・申し込み・問い合わせ先
- (財)千葉県環境財団・環境再生基金チーム
- TEL 043-246-2078(代)・FAX 043-246-6969
- <4 月 24 日の日程(予定)概要>

9:00	JR 千葉駅前(NTT 千葉支店前)バス発
10:00	JR 成田駅西口 発
12:00 頃	八郷町中央公民館(会場)着(各自昼食)
13:00~17:00	サミット第 1 部に参加
17:30	八郷町中央公民館 発
	午前中と逆コースで千葉へ戻ります。解散

広報部より

1. 皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。
 2. ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。
- HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部

環境啓発チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境技術部環境啓発チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)

会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人 1,000 円 団体 2,000 円 賛助会員 5,000 円		

